

平成22年度第1回川崎臨海部再生リエゾン推進協議会 議事録

■日時：平成22年8月24日（火） 14時30分～16時00分

■場所：川崎日航ホテル 11階 藤、楓の間

■次第・議事録：

1 開会

○総合企画局 平岡局長：本日は、今年度の第1回協議会となります。これまで島毎、あるいは個別企業の動向や課題に着目して検討してきたところをごさいます、今後もその視点は変わらないと考えておりますが、今年10月に羽田空港が国際化されますし、国においても新成長戦略を打ち出し、様々な取組を進めるということもごさいます。京浜臨海部はこれまで日本経済を牽引してきた地域でございますし、空港、港、鉄道、高速道路等の交通網といった高度な社会基盤が整っており、産業基盤も揃っておりまして、そうした集積を活かさない手はないと思っています。今後とも京浜臨海部が日本経済を牽引する地域たり得るという気概を持って取り組んで参りたいと思っています。本日は、議題にごさいますように羽田空港の再拡張・国際化の現状と新成長戦略というテーマで、内閣官房の方からは特区のお話もいただけるということをごさいます。私どもは川崎市単独ではなく、神奈川県、横浜市とも連携して首都圏の集積している機能をうまく活かして総合特区に採択されるように取り組んで参りたいと思いますので、本日ご参加の方にもご協力賜ればと思っております。本日はテーマがいっぱいをごさいます、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○大西会長：新成長戦略では、国際化あるいは技術、都市の集積といったことがテーマになっていて、アジアの時代に日本の再生に向けて新たな展開を図っていこうという方向性が打ち出されています。こうしたキーワードを並べてみると、正に川崎がその地としてふさわしいということになるのではないかと思います。そうした新しい視点も踏まえて、さらに発展的な議論をしていただければと思っておりますので、本日はたくさんの議題がありますが、よろしくお願ひします。簡単ではありますが挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

2 羽田空港の国際化を控えた臨海の活性化に向けた取組について

(1) 「羽田空港再拡張・国際化の現状」について

○大西会長：それでは羽田空港再拡張・国際化に向けた川崎臨海部の活性化に向けた取組について、はじめに本日の議題の前提として情報共有を図るために、羽田空港再拡張・国際化について国土交通省航空局よりお願ひいたします。

○国土交通省航空局空港部首都圏空港課東京国際空港企画室 衣本氏：[資料説明]

○大西会長：ありがとうございました。羽田空港が10月にオープンするということですが、既に7月からスカイアクセスが開業して成田空港のアクセスも良くなっています、東京を中心とした機能がいろいろなかたちで向上していくということで、これからの東アジアの時代にとって非常に重要なインフラが整っていくということだろうと思っております。第4滑走路の対

岸に神奈川口を中心とした京浜臨海部の一画があるわけです。そこでどういう機能の拡充を図っていくのかということがますます喫緊の課題になってきているのではないかと思います。今後、羽田空港の国際化が進展していく中で、神奈川県側の臨海部にどのような期待をお持ちなのか、今日は空港利用企業である全日本空輸(株)からご意見をいただきたいと思います。

○全日本空輸(株) 馬瀬氏：私どももこの秋から東南アジア、北米路線を増やしていこうと計画しています。そうした中で、航空会社は空港内にある施設だけではなく、例えばパイロットの訓練所等、様々な施設を市街地に持っています。そうした我々が持っていたものが狭隘化しているところも現状としてあります。そうした中で、神奈川県側にこういった構想があるということで、実は私どもは羽田空港から多摩川をはさんだ対岸に、ケータリング工場を建設工事中です。国際化に向けたケータリング工場をということで、来年春にオープン予定です。そうした中で、私どもが要望したいと思っているのは、アクセスの向上です。ケータリングで国際ターミナルに行こうとすると、高速道路湾岸線経由で羽田空港まで行くようなルートを考えておりますが、より近いルートがあるといいと思いますので、ご検討いただければと思っています。ケータリング工場のような施設が、私どもだけではなくて必要になっていますので、そういったアクセスが良くなるにつれて様々な投資が発生するのではないかと、アクセス向上に関する投資は非常に経済波及効果が高いのではないかと思います。ぜひご検討をよろしくお願いします。

○大西会長：今のお話については、リエゾン推進協議会でもかねてから議論してきた点であります。市の方から最近の動きについて説明をいただきたいと思います。

○川崎市総合企画局 玉井担当課長：お話にございましたアクセスにつきましては、この後の議題で説明させていただきます。殿町地区につきましては、アクセス向上も含め、国際拠点形成に取り組んでまいりたいと考えております。いつできるかは別にしても、京浜臨海部全体の今後の持続的発展という観点から羽田連絡道路の整備に取り組んでいきたいと考えています。

○大西会長：ただいまお話のあった新成長戦略で取り上げられている総合特区制度については、川崎市としても手を挙げたいということですし、神奈川口を中心とした川崎臨海部の総合整備、さらに羽田空港とのアクセス向上を図っていこうということだと思います。次の議題が新成長戦略と臨海部の動向についてですので、次の議題に入って、これまで点を含めて情報の共有と議論を進めていきたいと思います。まず、6月に閣議決定された、新成長戦略、特に総合特区制度について、内閣官房地域活性化統合事務局の方からご説明をいただいて、その後新成長戦略に向けた川崎市の先導的取組として、ライフサイエンス・環境分野の国際競争拠点形成構想、あるいは京浜三港連携の取組、さらに環境総合研究所の整備について川崎市の方から説明をお願いしたいと思います。はじめに内閣官房地域活性化統合事務局の長谷川様よりお話しをいただければと思います。

(2)「新成長戦略」と臨海部の動向

ア 「新成長戦略（総合特区制度）」

○内閣官房地域活性化統合事務局 長谷川企画官：[資料説明]

○大西会長：ありがとうございます。それでは続いて川崎市より新成長戦略を受けた市の先導的な3つの取組について説明をお願いいたします。

イ 新成長戦略を受けた市の先導的な取組

(ア) ライフサイエンス、環境分野の国際競争拠点形成構想

○川崎市総合企画局神奈川口・臨海部活性化推進室 玉井担当課長：[資料説明]

(イ) 京浜三港連携の取組

○川崎市港湾局 相良局長：[資料説明]

(ウ) 環境総合研究所の整備

○川崎市環境局 牧担当理事：[資料説明]

○大西会長：ありがとうございます。新成長戦略の総合特区に関連した取組、総合特区として提案していく場所に立地する川崎市の施設等についてご説明がありました。それについて皆様からご意見、ご質問等をいただきたいと思います。

○西武文理大学 柏木教授：内閣官房の長谷川様にお聞きしたいのですが、提示された資料に羽田の24時間国際化というのが最後に載ってしまっていて、かなり京浜地区は有望のような気がするのですが、一方でインターネット等で見ますと大阪府、あるいは福岡、名古屋等でも動きがあるようなのですが、選定される地域の見通しとして、京浜地区がもし可能性があるとなれば、それ以外でもいくつか採択するということになるのでしょうか。

○内閣官房 長谷川企画官：正直なところ、まだ制度のコンセプトを作って、制度自体を組み立てている段階でございまして、今の段階ではまだどこの地区をイメージしているのかということでは決まったものは特にございません。おそらく来年になればそういうプロセスに入ってくると思います。ただ、考え方としては、この資料に何度も出てきますように、選択と集中ということで、地域のしっかりとした取組をしているところに、国としても積極的に重点的に支援をしていこうということで、そういった観点からの絞込みがされるのではないかと考えております。

○西武文理大学 柏木教授：国の方でオープンスカイということを言われていて、羽田空港についてかなり明確なポジショニングをしていると思うのですが、そのことはあまり優位に働くということはないわけですか。

○内閣官房 長谷川企画官：おそらくそういった議論も、制度の枠組ができて、いろいろな提案が出てきてから議論が始まるお話かなと思っていますので、今の時点ではなかなかコメン

トしにくいです。

○東京ガス(株) 皆川氏：私はこの会合は初めてなので、理解を深める上で川崎市から情報提供をいただいた点について2つほど確認したいのですが、1つは殿町三丁目と京浜三港、あと前提として羽田空港の国際化という環境が整うということですが、話を聞いていると、例えば京浜三港と羽田国際化の関係、殿町三丁目と京浜三港の関係がわからなくて、ばらばらな印象を受けます。もう少し一体感を持ったような取組にしていくということは考えているのでしょうか。2つ目は、特区に対して規制緩和や税制の要望を国の方へ出されていることはこの資料の中で確認できたのですが、逆に従来あった特区制度の中で、例えば東京の都心部でもかなり容積率を緩和してビルが大幅に建て替わりましたが、そういった意味で、地方自治体の規制を緩和するということ、このエリアで考えていらっしゃるかどうかお聞きしたいと思います。

○大西会長：最初の点については、司会役の私のリードがまずかったのかもしれませんが、総合特区に殿町を中心とした神奈川口を提案したということです。合わせて三港連携についても検討中だということで、これを総合特区提案に関係している。それから環境総合研究所については、殿町三丁目地区の用地に立地する予定で事業が進んでいる。それぞれつながり方が違いますが、関連しているということです。市の方から補足的に説明していただきたいと思います。また、2点目のご質問についてもお願いします。

○川崎市総合企画局 平岡局長：ただいまご指摘のあった、殿町と三港連携ということで、バラバラ感があるのではないかとこの点ですが、私どもが先ほど総合特区の提案ということでご説明しましたが、これはあくまで考え方を整理した段階で、私どもとしては殿町を中心にライフサイエンス、環境分野で首都圏あるいは日本をリードするような先端的な産業拠点形成をしていきたいと思っています。その際の要素として港湾機能や空港機能、鉄道、道路の機能がベースになるのは間違いのないわけですし、三港連携の提案主体がだいぶ複層していますが、それを今後どう調整していくかが課題だと思っています。それは庁内調整もありますし、国とも調整して参りたいと思っています。地方自治体の規制の緩和ということでございますが、総合特区について国とも様々な調整をさせていただいていますが、地域の主体性についても指摘がありまして、ただ単純に今回の特区制度に対してお願い事だけではだめですよということも言われています。殿町について言えば、既に議会でも承認をいただき大きな投資もしています。地方分権改革の議論もされている中で、様々な規制について自治体レベルでどこまでできる権限があるのかを整理しなくてはいけないと思っておりますし、自治体としてできることはやりながら、国の制度と相乗的な効果があるかたちで拠点形成を進めていきたいと思っておりますが、具体的に今すぐ何をやるということは申し上げられない段階です。

○JFE都市開発(株) 星名氏：神奈川口と羽田空港の関連性ということでお話をいただきましたが、川崎市の方で調査されているかもしれませんが、川崎市の臨海部における道路事情としましては、浮島、千鳥、扇町等のエリアにおける縦のラインは整備されていますが、産

業道路と平行するような道路が遅れていて、非常に渋滞が多い中で、羽田と殿町の横のラインを作ってしまうと渋滞がますます増大してくるのではないかということが危惧されるのですが、川崎市としてはどのようにお考えでしょうか。

○川崎市建設緑政局 北野氏：後ほどの議題でも説明させていただきますが、川崎縦貫道路の大師ジャンクションの開通についてご説明を申し上げますとともに、ご指摘にありましたように市内の一般道路の交通体系につきましては、私どもの方でリエゾン推進協議会の会員の皆様に相談させていただいているところでございます。その中で交差点の形状の改良、それから信号機の改良等、対応できる部分につきましては皆様のご協力をいただきながらやっております。ただ、新しい道路を整備するという状況にはございませんので、私どもとしては、県警本部等の関係機関とも調整しながら、お話したような可能な範囲で様々な工夫を行っております。

○西武文理大学 柏木教授：川崎市に伺いたいのですが、総合特区を内閣官房に提案する意味でも、川崎港の取組として、輸入については、やはり明確に消費地を背後に抱えて道路も整備されて港湾もあり、なおかつ航空貨物等もどのくらい入って来るのかわかりませんが、そういったことも含めて受け皿としては消費地がかなり大きいと思うのですが、輸出する方はこれだけの企業がいって、東アジアとの国際的な競争優位の中でどんなものが輸出されるのか、今後5年後、10年後どれだけそれらが優位性を持って川崎港から出て行くのかということイメージしていただけると、おそらく内閣官房の方も、まだまだ元気でいられるんだなということでお話をいただければいいかと思っております。これだけの企業と研究開発機能の集積も進んでいるわけですから、その辺も含めて少し整理されていたら紹介していただきたいし、もしされていないようでしたらやっていただければいいかと思っておりますが、どうでしょうか。

○川崎市港湾局 相良局長：非常に難しい問題だと思っております。港湾局の職務というのは物流を中心に物事を考えます。今回の三港連携ではコストを低減しましょうというのがメインになっていまして、そのためには集荷しましょうということです。コンテナについては大きく3つの柱を持っています。一つは東日本からのメインポートになりましょうということです。例えばリンゴ等を中国等に輸出しようということで、既に神戸でも実験的にやっていますし、川崎港でもやっていきたい。背後に冷凍倉庫群を持っているのでそれを活かしたいということです。それから、日本のハブポートになりたい。基本的には、皆様もご存知のように国際コンテナ戦略港湾を阪神と京浜にした大きな理由は地震の関係です。神戸が直下型の地震を受けて物流機能が相当衰退した。それを踏まえて日本で2港持つおけばどちらかが機能を果たすだろうということで、京浜の場合は東日本のハブポートになろうということです。3つ目は東南アジアのハブポートです。基本的には北米航路のファーストポートとエンドポートが京浜です。その背後圏にはわが国の製造業の約3割が立地していますし、それから4千万人の消費人口があるということで、消費財と製造業の製品を近距離で運んでいきたいということです。それが京浜港の考え方です。特に川崎港の場合は、先程もありましたように道路網が脆弱であるということ、それと国内の鉄道、国内の船舶、トラック輸送とい

った輸送網が脆弱ということです。首都圏の道路網を見ても集中型にはなっていない。それから高速道路の料金が安いということで物流企業からすれば非常に問題があるということも踏まえていろいろと考えています。トピックスとして、今やっているのは、首都高の社会実験をできないだろうかということです。港湾物流に関して、国の支援を要請していますが、川崎港、横浜港、東京港の高速道路を少し安くしていただけないか。ただし、少し手前味噌で申し訳ないのですが、港湾貨物だけを対象にして、それによってコストを安くしていただければと思います。川崎港の背後圏には相当の製造業の集積がありますが、この製造業の輸出が横浜港に全部行っています。横浜港は輸入半分、輸出半分です。東京港は消費財の輸入が大部分です。川崎港の場合はコンテナについては後進ですので1割以下ですが、それを現在立地している冷凍倉庫群を利用して輸出・輸入に活かしていく。中国では日本の食文化、食の安全性が見直されているということで、日本の食品が相当入っています。それから川崎港としては、背後圏の製造業の製品を集中的に取り扱いたい。そのための取組として拠点地区への物流施設の立地を推進しており、まず1期地区約10haに4社が立地しました。2期地区については10月に募集する予定ですが、これは定期借地権方式で日本で初めてとなります。20年間の定期借地で初期投資を抑えることで、輸出・輸入企業や倉庫の立地を促進しようということで取り組んでいます。

○大西会長：まだご質問もあるとは思いますが、まだご報告させていただくことが残っていますので、この議論はこの辺にします。続いて、新たな成長分野における立地企業の取組ということで、2社の方に発表をしていただきます。新成長戦略の中でパッケージ型インフラの海外展開の促進がうたわれていて、具体的には新幹線、都市交通、水があげられていますが、中でも水に関する取組は自治体を巻き込んで展開されているようです。今日はJFEエンジニアリング(株)からオーストラリアにおける水資源供給システムについて発表していただきたいと思います。それから、グリーンイノベーションの先進的な取組としてJX日鉱日石エネルギー(株)から新エネルギー取組事例として、風力発電、バイオマス発電について発表していただきます。JFEエンジニアリングの取組には川崎市上下水道局も協力しているということです。では、よろしくお願いします。

ウ 新たな成長分野における立地企業の取組

(ア) 豪州における分散型水資源供給システム事業

○JFEエンジニアリング(株) 東島氏：[資料説明]

(イ) 風力発電・バイオマス発電事業

○JX日航日石エネルギー(株) 菊地氏：[資料説明]

○大西会長：ありがとうございました。本日はまだ報告がありまして、申し訳ありませんが、10分ほど時間を延長させていただきます。それでは少し手短かに説明をお願いします。その他の関連情報ということで、工場立地法における太陽光発電施設の環境施設への位置づけについて川崎市経済労働局から、羽田空港からのアクセス向上の取組について、国際線ターミナル新駅については京浜急行電鉄(株)から、首都高川崎線大師ジャンクションの開通につい

ては川崎市建設緑政局から説明をお願いします。

(3) その他関連情報提供

ア 工場立地法における太陽光発電施設の環境施設の位置づけについて

○川崎市経済労働局 小泉局長：[資料説明]

イ 羽田空港からのアクセス向上の取組

(ア)国際線ターミナル新駅について

○京浜急行電鉄(株) 原田氏：[資料説明]

(イ)首都高川崎線大師ジャンクションの開通について

○川崎市建設緑政局広域道路課 藤倉課長：[資料説明]

3 報告

(1) 21世紀の船出プロジェクト

(2) 川崎国際環境技術展 2011 出展者募集

(3) 企業市民交流事業

○大西会長：報告事項については、時間の関係で別の機会にそれぞれに告知していただきたいと思ひます。「21世紀の船出プロジェクト」「2011年の川崎国際環境技術展」については、パンフレットが皆様の資料の中に入っていると思ひますので、ご覧いただきたいと思ひます。また、市の方からも連絡があると思ひますのでよろしくお願ひいたします。それでは時間を超過して大変申し訳ありませんでした。以上で本日予定していた議題は終わりましたので事務局の方にお返しします。

4. 閉会

○川崎市総合企画局 平岡局長：本日は本当に実質的ないい議論ができて、今後も個別に調整、あるいはご意見などもいただきながら臨海部の発展に努めてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

以上

